

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

〒 123-0842 東京都足立区栗原 1-3-1 ギャラクシティ内
足立区青少年センター 青少年事業係

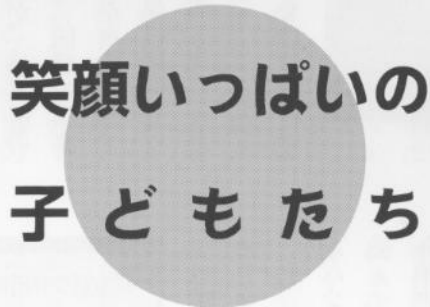
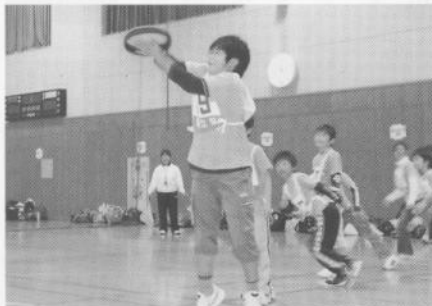
TEL 03-5242-8169 <http://www.a-shorenkyo.jp>

発行人 野辺 陽子

編集 調査広報部

石井 小野田 鈴木 高澤

高野 高橋 田中 堀内 山本



足立区
少年団体連合協議会会長

野辺 陽子

「あいさつ」のすすめ

「おはよう運動」「あいさつ通り」などと銘打って、私達育成者は、子ども達にあいさつのすすめを展開している。しかし、その大人達自身はしっかりあいさつができていないのだろうか。何かの会合で、知人友人に会えば「久しぶり!」「この間はどうも」などと言いつつ、「こんにちちは、こんばんは、こんばんは」は省略されていることが多い。一〇年も前にアメリカのスーパーマーケットでレジの係の人が「こんにちちは」、帰りには「良い一日でありますように」と言うではないか。初対面のしかも異邦人である私にあいさつをしてくれたのにはびっくりしたものだ。今、日本のスーパーのレジでも「こんにちちは」「こんばんは」が「いらっしやいませ」の代わりに使われ始めた。もちろん私は「こんにちは」と返しているが、ほとんどのお客は返答無し。あいさつをして、返答のない時ほど淋しいことはない。それでも、返事をしない大人や子ども達に、くりかえしあいさつを続けていこうと思う。きっといつか、相手から「こんにちちは」と言ってくれる日の来ることを信じて……。

少連協 新年会

平成二十二年一月十四日午後六時三十分から足立区庁舎十四階ピカールに於いて足立区少年団体連合協議会新年会が開催されました。

山崎金壽副会長の開会の挨拶の後、参加者全員で区歌「わがまち足立」を斉唱しました。

馬場信夫足立区スポーツ少年団本部長、小野田みよ子舎人地少協会長のリードがまさに笑顔、人の和を実現させました。

野辺陽子少連協会長からは、少連協活動に対し、家庭教育・社会教育の担当制が、気持ちと実態に

ジレンマを生じさせている昨今であるが、各教育の協働参画をめざして頑張っていきたいと新年度の抱負が語られました。

主賓の近藤やよい区長からは、少連協のみならず、足立区の広い範囲で活動されている皆さんの子育てを支援、協働参画が、足立区の子育てを支えている。国政の事業仕分けにより、予算が削減されても、子どもの安全確保は継続していくという決意を表明していただきました。

齋藤幸枝足立区教育委員会教育



▲近藤やよい足立区長のご挨拶



▲齋藤幸枝教育長の乾杯のご発声



▲ハンドベルの演奏

長の乾杯の発声で新年の祝宴が始まりました。

第二部では、少連協総務部によるハンドベルの演奏が祝宴に華を添えて、和やかなムードの中、新年恒例のビンゴゲームも行われました。

参加者全員が童心に返り、百十四名全員に幸せの福の神が舞い降りしました。

宴の終演は、参加者全員が手をつなぎ、「青い山脈」の合唱でした。子ども達の輝く未来、夢を育む環境を守っていくという連帯感が会場を包み込み、新年会は終了しました。



▲手をつないで「青い山脈」の大合唱

常任理事懇親会

ジュニア
リーダー
を語る

十二月に行われた理事懇親会に於いて、教育委員会と少連協の共催で、各地少協で開催されているジュニアリーダー研修会の現状が討論されました。

A 地少協

研修会の参加は、毎年二〇名程度あるが、持ち回りで会場校が変わるため、会場校の児童が中心の参加となる。なかなか次のステップの研修へとすすまない。二〜三名程度がリーダーとして活躍をしている。

B 地少協

ジュニアリーダー研修会のみで次の研修会への発展がない。学校単位で運動会などボランティア参加となるため、地域リーダーの出番がない。子ども達の意識がリーダーになりたくて参加しているようには思えない。

C 地少協

組織はしっかりしていて、活動は活発なのだが、次の世代になかなかつながらない。また女子が多く、男子が少ない。特に高校生の男子が少ない。

昼間習い事をしている子どもが多いので、ジュニアリーダー研修会の開催を夜間にしては……と考えている。

D 地少協

ジュニアリーダー研修会の開催を二校で交互に行っているため、開催校の生徒の参加が中心となる。学校任せではなく、地少協でもキャンプの誘いの手紙を出している。子どもを参加させるために、親を説得し協力を得なければならぬ。

E 地少協

ジュニアリーダー研修会終了後、地域ジュニアで開催すると地域ボランティア活動・善行青少年の表彰、さらに進学内申書項目の書き込み（大学受験まで可）などをアピールするチラシ等が必要なのではないかと、キャンプ等で協力したリーダーには、少連協総会で感謝状などで讃える、という意見もありました。

暗中模索の講師育成セミナー

前号の少連協ニュースでジュニアリーダー指導者の高齢化を指摘しました。それが機となったかどうかは分かりませんが、今回、足立区教育委員会・少連協の企画で

三月十七日、二十四日に「子どもの遊び方・ふれ合い方」講座が開催されました。

参加対象は、十八歳以上ということでしたが、二十歳代は二人と少なく、三、四十歳代四人、五、六十歳代十四名という参加状況でした。このセミナーでは、子ども会というものの定義から始まりました。子ども会は、異年齢の遊びを目的とする集団、さらに遊びという体験をする。体験の中から学習する。これが子ども会であるとし、遊びの体験（室内）を中心に行いました。参加者がこの体験の中からなにを学び、表現していくか、これからが楽しみです。

講師層の充実を計り、企画したセミナーが今後、地域活動の活性化につながることを期待します。しかし現状を語られ、打開策の提案をされても、現在の問題点に討議されない以上、この問題に関するの進展はありえないでしょう。

セミナーの中でも比較された、

異年齢集団があります。スポーツ団体（野球・サッカー・スイミング）です。近年スポーツ団体に加入する子どもが増えています。子ども会とスポーツ団体との違いは

なんでしょうか。費用がかかり、趣味的なものが、個人がそれぞれ目標を持って達成感を味わっています。今年の冬季オリンピック・フィギュアスケート世界選手権にも如実に現れていました。オリンピックで金メダルを獲った選手がモチベーションを維持できないまま次大会に望むと、いろいろなアクシデントに包まれ、続けて良い結果を残すことは困難でした。

では、遊びを目的とする子ども会で、子ども達のモチベーションを与えてあげることが可能なのでしょうか。体験を発表する機会を増やすことではないでしょうか。子ども会会員だけではなく、学校を通じて募集をかけているジュニアリーダーです。地域と学校が一緒に作り、彼らが活躍する場をぜひ作ってあげてほしいと思います。他人から認められ、褒められ子ども達は成長していきます。うれしいと思っただ瞬間、自分の居場所ができるのです。

子ども達が自分の居場所であると感じられる空間が増えることが、ジュニアリーダーの活性化、さらに子ども会会員の増加につながるのではないのでしょうか。

全国子ども会育成中央会議・研究大会 in 長崎

開催主旨「地域の子どもを育む子ども会の使命」のもと、平成二十二年二月十九日（金）から二十一日（日）の三日間、長崎市民会館文化ホール・長崎全日空ホテルグラバービル両会場にて、第四十三回（平成二十一年度）全国子ども会育成中央会議・研究大会が開催されました。

課題は昨年に引き続き「一〇〇万人の『子ども会運動』を展開しよう！」また「子どもは地域で育つ」を基本理念とし、さらに分科会のテーマを

- 子ども会の意義
- 子ども会の運営
- 子ども会の運動推進

の三本の柱に分類し、北海道から沖縄まで全国から七〇〇余名の子ども会関係者が集まりました。

「子どもを取り巻く環境への対応」「親の意識を変え育成会活動推進」等、現実に子ども会が抱えている課題を、子ども会が基本としている理論と原点から活発な意見交換があり、子ども会活動の充実、発展を図るための熱心な研究協議が繰り広げられました。

なお、例年のことではありませんが、青少年センターの村上長彦社会教育主事には分科会の講師・運営スタッフとして中心的役割を担っていただきました。

少連協からは野辺陽子会長、岩澤明美副会長、取材を兼ねて調査・広報部長の小野田が参加しました。

開会式と表彰式

第一日目は、長崎市民会館文化ホールにおいて、午後一時から開会式が行われました。開会式に引き続き行われた表彰式では、子ども会育成に長年携わっていらっしゃる育成者や指導者個人七十九名と、育成組織や指導者組織十二

団体に対して、その功績を称え、表彰状の授与が行われました。表彰を受けられた皆様方には心よりのお祝いと、長年の活動に対する感謝の意を表したいと思います。

子ども会伝承芸能発表

表彰式の後には、子ども会で伝承芸能に取り組んでいる、長崎市立諏訪小学校の六年生による「子ども龍踊（こどもじゃおどり）」が発表されました。

この「子ども龍踊」は、長崎の秋の大祭「長崎くんち」の後に諏訪小学校で行われる「諏訪っ子くんちフェスティバル」という学校行事で披露されているものです。

地域に伝わる文化や行事を大人が子どもに伝える、という取り組みを通して、子どもたちの地域に対する愛着が強まるとともに、大人同士のつながりを強める結果となるこういった取り組みは、参考にしたい活動です。

記念講演

子どもたちの踊りの後は「国際貿易港長崎の秘話」と題した記念講演が行われました。

講師は、長崎総合科学大学環

境・建築学部学部長であるブライアン・パークガフニ教授でした。

一漁村であった長崎が、ヨーロッパ人や中国人が頻りに訪れる国際貿易港に発展する過程の中で、長崎の文化と教育がどのように変わっていったかを、貴重な映像資料と共に興味深いお話で紹介していただきました。

この講演を通して、長崎の独特な和洋折衷文化が生まれてきた様子など、長崎の街のことをより理解することができました。

オリエンテーション

長崎の街を理解する踊りの披露と記念講演の後には、三日間にわたる中央会議のオリエンテーションが行われました。

オリエンテーションでは、全体のねらいと共に、二日目の分科会の構成やそれぞれの位置づけ、目標と内容について説明が行われました。今回の中央会議では「子ども会の意義」を再確認し「子ども会の運営」を考え「子ども会の運動推進」を図っていくことをねらいとしています。全国の同じ思いを持った育成者との交流で、子ども会充実のための取り組みをより強力に進めていくことが大切だと



▶開会式



▶記念講演

感じました。

受賞者を囲む会、懇親会

一日目の締めくくりには、受賞者を囲む会と懇親会が行われ、全国の育成者と親交を深めることができました。(村上長彦)

分科会の報告

前述のように、三本の大きな柱を軸に分科会が九つに分けられています。ここでは、B分科会の報告をいたします。

午前のテーマ…地域基盤を生かした子ども会活動…地域の子育て活動を探る

講師…(社)全国子ども会連合会専門委員 小菅知三氏

B分科会の参加者は七十二名、八人が一グループになり、自己紹介からはじまりました。

1 参加者アンケートから見る子ども会像を考える

子ども会活動の主体は子どもであるということはわかり過ぎるくらいわかっているが、そのことを実現するために、そのような運営がなされているか。

地域によっては、大人中心、行事中心ということが依然としてかなりあるようだ。大人の支援は必

要だが、子どもがお客さんで終始している子ども会にならないよう運営する必要がある。

活動の年間計画・役割分担等、子ども達が話し合うことによってその活動の成功、失敗を自分達の責任として、認識できる運営が大切ではないか。

2 基盤の変化と活動内容

価値観の変化、生活様式の変化、教育環境の変化(週五日制・学校自由選択制・二期制等)。

子ども会活動の組織基盤が町会、自治会と地域から離れて、趣味や同好会(幼・保育園の同窓会、野球、サッカークラブ等)に変化している地区が増えている。

地方でも都市化が進み、新しい住人との交流を積極的にはかり、祭りやスポーツ大会等への参加のよびかけ、大人へは育成者としての協力要請を働きかけていく。

子ども達が出来そうなことは、子ども達に任せ、自主性や創造性、さらに豊かな人間関係を身につけるチャンスを作ってほしい。

3 学校の放課後広場や居場所づくりが盛んである。その中で、子ども会はどう係わりを担っているか。

PTAとの関わり、役割の位置づけ、ジュニアリーダーの育成の強化、広報活動の充実(行事案内のポスターやチラシ等を子ども達が作成し、町内の掲示板や校内掲示板に展示する等)。

この後、グループで討議と発表が行われました。

小菅先生の総評

地域基盤(人材・伝承・異年齢企業)がしっかりしている地域は、当然ながら大きな地域力があるということですが。

地域の高齢者は、知識・技能・人脈と三拍子そろった宝です。伝統芸能を伝承していく上でも、遠慮せず協力を求めていけば大きな力になるのではないのでしょうか。

昼食時間を挟んで、

午後のテーマ…日常活動の定着を目指す子ども会活動…子ども会の日常活動を探る

講師…(社)全国子ども会連合会専門委員 河村 隆氏

全子連の求める子ども像…しなやかな子どもの育成。

子ども会像…子どもの手による子ども会。「言うは易し、行うは難し」、基本中の基本である。

さらに、日常活動の考え方、内

容、定着、こんなことを今後は中心に話し合ってみてくださいというところで、二時間ぐらいかけてグループ討議が行われ発表されました。地方の代表者が多いので活動内容などは自然体験が多く、そんな中では個性が発揮され、子ども達の成長過程を確認できていて次のステップに繋ぎやすい。

積極的に行事に参加し、異年齢集団の中で大人とも係わりながらしなやかさが身につけていくと思っている。ただ、子どもを取り巻く大人達のしなやかさが大いに求められているのではないかと。

楽しく行事に参加する子ども達、係わる大人だって楽しいのが一番なのではないか。

河村先生の総評

地域の基盤と日常活動の内容については、ここに参加している地域はしっかり活動しているので、体験を通して子ども達との関係もすばらしいものがあります。

今後も、ジュニアリーダーの育成の重要性もお考えいただき、子ども達が達成感を共有しながら、しなやかに成長する姿を見守ってください、と話され、長い一日が終りました。

輝く心の世界

第二回ドッチビー大会

平成二十二年二月十一日、昨年に引き続き外は小雪交じりの天候でしたが、梅島エルソフィアの体育館内は子ども達の熱気であふれていました。参加者十六チーム、約一九〇名のエントリーがありました。

野辺少連協会長、五十嵐青少年センター所長、東京都子ども会連合会石井理事長の挨拶の後、第5地少協子ども会より大友俊介君・曲淵健太君の選手宣誓がありました。

黒澤体育指導員による入念なストレッチ運動も行われ、体を十分に温めたあと、チームが均一になるように、小学生の部・小学生+中学生の部・小学生+大人の部の三つのブロックに分かれ、対戦が行われました。今年も足立区体育指導委員十九名のスタッフに支えられ、滞りなく試合が進行されました。



足立区体育指導委員のみなさん

各ブロック表彰チームは、以下のとおりです。

■小学生の部

優勝 第5地少協

本町二丁目子ども会

準優勝 舍人地少協

日の出 高学年



平成21年度第2回ドッチビー大会

優勝 本町二丁目子ども会



平成21年度第2回ドッチビー大会

準優勝 日の出 高学年

■小学生+中学生の部

優勝 舍人地少協

AOZORA-Aチーム

準優勝 舍人地少協

四葉クローバーB



平成21年度第2回ドッチビー大会

優勝 AOZORA-Aチーム



平成21年度第2回ドッチビー大会

準優勝 四葉クローバーB

■小学生+大人の部

優勝 チーム興本

少連協チーム



平成21年度第2回ドッチビー大会

優勝 チーム興本



平成21年度第2回ドッチビー大会

準優勝 少連協チーム

優勝チームには、トロフィーと賞状、準優勝チームには、賞状が授与されました。表彰はされませんでした。表彰はされたチームの応援は、他のチームに勝るすばらしいものでした。

閉会式では、日本ドッチビー協会稲垣代表・プロデューサーより七割の参加者が初めてのゲームでしたが、一試合目より二試合目とゲームに慣れ、足立区のドッチビー普及に対する期待が寄せられました。

試合後行われた反省会では、ルールをさらに徹底し、更なる普及と、大会の規模拡大が体育指導委員との間で約束されました。少連協三十一団体の参加が実現される大会にしたいものです。

以下、足立区少年団体連合協議会ドッチビー規定です。ドッチボールが基本の競技です。参考にして来年

は、ぜひエントリーをしてはいかがでしょうか。

★コート

正規サイズであるバレーボールコート(縦9メートル、横18メートル)を使用する。ただし会場により縮小することを可とする。

★競技人数

競技者の総数は、13人を基本とする。ただし前述のとおり、縮小することができる。なお外野は3人を基本とし、これを欠いて行うことを禁ずる。したがって3人を欠いて内野に入ることはできない。審判等は、主審1、副審1、線審3、タイムキーパー1、とする。

★ゲームの開始終了及び勝敗開始

審判の指示によりセンターラインに整列し挨拶を行う。

キャプテンがじゃんけんにより先行またはコートを選択する。

内野競技者(以下内野という)と外野競技者(以下外野という)に別れ、審判の合図で試合を開始する。またゲームは前半、後半で行う。

終了

どちらかの内野が全員アウトになった時。

競技時間が終了した時。この場合審判の指示により外野は、その場に座り、内野は、センターラインに整列をする。内野数の多いチームを勝ちとする。同点の場合は、

下記により勝ちとする。

①合計の得点の多いチーム。
 ②①が同点の場合は、失点の少ないチーム。

③前記で勝敗が、決しない場合は、審判の判定によるフライリップ（じやんけんの後、どちらかがディスクを上投に投げ、反対側が裏、表を着地前に選択）等。

★ゲームの所要時間
 1ゲーム前半5分、後半5分の計10分

★アウトについて
 内野は、以下によりアウトとなり、外野に回る。ただし、外野として相手チームの内野にディスクを当てたときは、内野に復帰できる。

①相手が投じたディスクが体に触れた時。なお、当たったディスクが着地前に他の味方がとった場合は、この限りではない。

②ディスクを持ったまま5秒以上経過した時。

③ディスクを持った者が、ディスクを投げずに味方に渡した時。けが人がでた時やプレーの続行が不可能な競技者がでたときは、タイムアウトとする。

★ファウルについて

以下の場合には、ファウルとし、ノーカウントとして、受け手チームのものとして扱う。

①プレイヤーがラインを踏み越えてディスクを投じた時。

②ディスクデットとなった（判断した）時。この場合ディスクは、審判に戻す。

③ディスクが、ライン上に止まった時。最後にディスクを触ったチーム

と反対側のチームのものとする。
 ★ディスクの投げ方

ディスクは、フォアハンドスローを原則とする。

ドッチビー大会 事業研修部の長〜い一日



同時に体育指導員も資料確認

8:45 集合
 事業研修部に
 資料配布



時間にならないと体育館に入れない！



体育館に資材、資料運搬後会場設営



選手が会場に到着
 会場作りと並行して
 受け付けも…



協議会の旗、もう少し引っ張って

開会式まで時間がない。
 急いで各チームのプラ
 カード作成



無事開会式が始まった後も
 大会役員のお弁当、飲み物の手配 etc
 大会終了後の後片付け反省会
 本当に一日ご苦労様でした。

スタッフ集合 8:45
 体育館開錠 9:00
 参加者受付 9:10
 開会式 9:30
 準備体操後
 午前の部試合開始 10:00

昼食休憩 12:15 (予定より15分遅れ)
 さすが体育指導委員 午前中に全27試合の内
 16試合消化
 休憩中、体育指導委員さんたちは午前中の反
 省会も行っていました。
 午後の部試合開始 13:00
 閉会式 15:00
 体育館退館 15:45

平成二十一年度 がんばる地少協事業報告

今年度総会にて、十一団体が「がんばる地少協」の認定を受け地少協の活性化に取り組んできました。その報告です。

- ① 行事名称、② 開催日、③ 会場、④ 目的、⑤ 参加者数。

中川地少協

- ① 子ども研修会（潮干狩り）、② 六月二十一日（日）、③ 木更津牛込海岸、④ 地区合同行事で団体行動の大切さを学ぶ、⑤ 約一〇〇名

第十三地少協

- ① ミニ運動会、② 十一月三日（火）、③ 辰沼小学校校庭、④ 子ども会の向上発展と親睦を図る、⑤ 四〇〇名

第十四地少協

- ① ビーチボールバレー大会、② 十一月三日（火）、③ 伊興小学校体育館・伊興地域学習センター体育館、④ 子どもと共にスポーツに取組み健全育成を図る、⑤ 二〇〇名

第五地少協

- ① ドッチビー大会、② 練習十一月二十八日（土）、大会十二月十二日（土）、③ 練習・西新井第二小体育館、大会・西新井第一小体育

- 館、④ ドッチビーの普及拡大と少連協第二回大会のチーム選抜、⑤ 二四〇名

蒲原地少協

- ① 四十四回秋季体育祭、② 十月二十五日（日）、③ 蒲原中学校校庭、④ 子ども会の向上発展と健全育成、⑤ 四〇〇名

扇地少協

- ① ドッチビー大会、② 十二月二十三日（水）、③ 興本小学校体育館、④ ドッチビーの普及と親睦を図る、⑤ 三〇名

新田地少協

- ① ドッチビー大会、② 十一月二十三日（水）、③ 新田小学校体育館、④ ドッチビーの普及・異年齢間の交流を深める、⑤ 四〇名

第十地少協

- ① プラネタリウム鑑賞、ドッチビー大会、② 一月十六日（土）、③ ギャラクシיתי・島根小学校、④ プラネタリウム鑑賞で家族間の話題提供、ドッチビーの普及、⑤ 子ども会会員とその家族九九名

淵江地少協

- ① 夏休みわくわくバスツアー、② 七月二十六日（日）、③ つくばエキスポセンター・歴史公園ワーブステーション江戸、④ 科学技術を

- 体験し、興味と夢を育む・異年齢間の交流を深め社会規範を学ぶ、⑤ 四八名

研修旅行を終えて

総務部長 元井一壽

去る平成二十一年十二月五日、足立区少連協総務部主催の日帰り研修旅行が開催されました。

行き先は、富士山レーダードーム、富士吉田市歴史民俗博物館、西湖いやしの里根場（ねんば）の三カ所を見学しました。

当日は会長以下四十二名が参加し、まず西湖畔にある根場に行きました。

昭和四十一年の台風で壊滅した集落を当時の通り、二十棟再建したとのこと。とても落ち着いた茅葺き文化を体験できました。

その後、富士山レーダードームでは、完成までの苦勞が手に取るように分かる映画を観賞し、歴史民俗博物館では富士山信仰の様子を勉強して帰途につきました。

今回は、歴史の勉強と同時に、車中での親睦もできて、大変有意義な日帰り研修旅行だったと思います。

参加いただきました皆様、大変



お疲れさまでした。

編集後記

午前十時の山の手線、となりの席の二十代半ばの女性がパンとパックジュースを食している。三歳ぐらいの女の子がその姿を凝視していた。そのうちお母さんに何か食べたいとおねだりを始めた。おうちへ帰ってからねと、その一言で終わった。「三つ子の魂百までも」。澄んだ瞳がいつまでも輝いていてほしい。

再建された茅葺き集落、根場にて▶